

開校に至るまでの、地域での話し合いや課題解決に中心的な役割を果たした、小浜美郷小学校開校準備委員会の松岡委員長にお話を聞きました。

最初は不安も

私自身は、この委員会の前身である「小学校建設準備委員会」のころから活動に関わっています。

開校に向けて動き出した当初は、どの地区からも、地元の学校がなくなることで、「地域がさびれて市の発展から置き去りにされるのではないか」、「地域住民が集う場が失われる」などといった不安の声が多く聞かれました。

そうした不安を取り除くためにも、まずは各地域と多くの会議や協議を重ねながら、信頼関係を築くところから始めました。

「大きな学校」が子どもたちには必要

保護者や先生、地域住民の人たちと議論を重ねるうちに、徐々に「子どもたちには、より多くの人と出会い、広々とした空間で学び、遊ぶことができる『大きな学校』が必要ではないか」という意見が増え、何とか合意を得ることができました。

その後、通学時の安全確保など具体的な課題の解決に向けて、議論と検討を進めてきました。

子どもたちのこれからに期待

小浜美郷小学校に通う子どもたちには、各地区の伝統行事などにみんなで一緒に参加して、今まで地域が大事に守ってきたものを受け継ぎながら、仲良く学び、育ってほしいですね。

開校後の課題

地域住民や保護者のみなさんの理解と協力があって、子どもたちにとり、とてもいい学校になったと思います。本当に、感謝してもしきれません。

開校後も、各地区が新しい学校をどのように活用していくかや、旧小学校の跡地利用など、多くの課題がありますが、小浜美郷小学校を一つの拠点として、4地区から多くの人が集まり、交流を深めていけたらいいと思っています。

小浜美郷小学校 開校準備委員会
委員長 松岡 利和さん
(71歳・市場)



小浜市教育委員会
くぼた ひろし 教育長

開校によせて

小浜市の学校統廃合の取り組みは、少子化が進む中、平成14年に市教育委員会が小浜市教育施設等研究委員会に、本市の将来を見据えた学校規模の適正化や校区のあり方について諮問を行ったことから始まりました。以来、実に多くの皆さまのご尽力により、今春、統合された小浜美郷小学校として開校を迎えられることは、非常に感慨深いです。

これまで地域とともに歩み続け、皆さま

が慣れ親しんできた4つの小学校が、長い歴史に幕を降ろすことには、大きな寂しさを感じずにはられません。

しかし、同時に小浜美郷小学校が開校し、子どもの未来に向かって夢や希望を描き実現していく新たな教育活動がスタートします。

子どもたちには、多くの先輩によって連綿と受け継がれてきた各小学校の歴史や伝統を誇りとし、小浜美郷小学校の新しい歴史作りを進めてほしいと切に願っています。

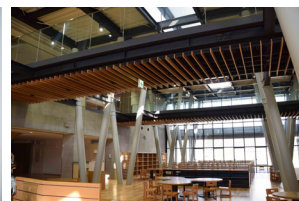
施設の特徴

校舎は鉄筋コンクリート造の2階建てで、児童玄関を抜けたすぐのところに、図書室や学習スペースの機能を持つ「ラーニングセンター」を設置。児童が何げなく本や教材に触ることができ、知的好奇心をくすぐる空間としました。

また、児童が一日のうち最も長く過ごす普通教室は、ぬくもりが感じられるよう天井部分を木のほりが見える構造にしました。

【所在地】小浜市金屋第39号8番地

【面積】敷地面積 28,758㎡、校舎床面積 5,085.5㎡



【左上】児童玄関の入口の校章が児童らを「お出迎え」
【上】ラーニングセンターは吹き抜けで、開放感あふれる空間
【左】教室の天井には県産スギ材のほりが見え、自然のぬくもりが感じられる

特集



いよいよ開校！ 小浜美郷小学校

■問い合わせ 教育総務課 ☎ 64・6032

4地区の個性が集い、新たな一歩を踏み出す

4月1日、松永小学校・国富小学校・遠敷小学校・宮川小学校の4つの小学校がひとつになり、「小浜美郷小学校」として開校します。

4地区から300人あまりの児童が集い、それぞれの地域の特色や個性を生かし、互いに手を取り合って新たな美しい故郷をつくる第一歩を踏み出します。今回は、開校する小浜美郷小学校と、閉校する4校について特集します。

小学校統合の合意に至るまで

市教育委員会は、小浜市教育施設等研究委員会の答申（平成16年9月）を受けて、小学校の統合・再編に関する試案を作成。ここから統合に向けた取り組みが始まりました。

20年6月には、市東部の4地区（松永・国富・遠敷・宮川地区）から3人ずつ委員を集め、「小学校建設準備委員会」を立ち上げ。同時に統合への理解を得るため、東部4地区の住民を対象に説明会を開きました。

23年度からは、委員会を「東部地区小学校統合準備委員会」と改称し、統合に向けてさらなる協議や取り組みを進めた結果、24年8月6日、東部4地区すべてが小学校統合に合意しました。

統合合意から今日まで

合意以降は、建設候補地の選定や基本計画・基本設計の策定などを進めてきました。基本設計の策定にあたって、各地区や保護者、教職員などさまざまな意見を反映するためのワークショップを開催。施設を地域の人も利用できるよう、より良い空間づくりを目指して意見を交換しました。

学校名は、公募に189件の案が寄せられ、平成28年1月に「小浜美郷小学校」に決定。その後、校歌の歌詞や校章も公募により決定しました。

ハード面では、26年度から用地取得や実施設計などを進め、28年度に建設工事に着手。昨年9月末に工事が完了しました。

また、ソフト面の課題や準備事項を検討・決定するため、28年4月、新たに「小浜美郷小学校開校準備委員会」を設置し、地区やPTA、園児の保護者、教職員らと協力して準備を進めてきました。

思い出とともに歩む

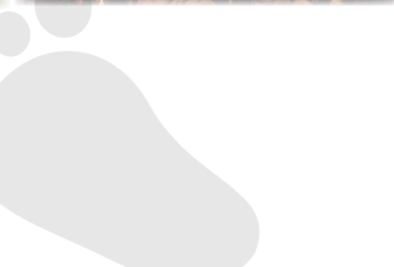
～未来へ続く足あと～



地域に根ざした教育に取り組み、豊かな自然、誇りある文化、温かい人たちとともに、長年、子どもたちを育てて来た4校。

それぞれが歩んで来た歴史を振り返れば、そこにはたくさんの足あとが、思い出とともに刻まれています。

その足あとは、新しい学校でも、時には並び、時には1つに重なりながら、これからも歩みを進めることでしょう。



ありがとう、我らが学び舎



卒業生インタビュー

統合する4校で最後の卒業生となる6年生に、学校生活の思い出を聞きました。



国富小学校
わくだほのか
和久田 穂乃香 さん



国富とコウノトリをPR

コウノトリに関わる学習で、5年生のときから、国富の田んぼや水路などにいる生き物の調査や、PR活動に取り組んだことが、私の思い出です。

特に今年度は、東京で開かれた「全国野生生物保護実績発表大会」で、国富小学校のこれまでの取り組みを発表して、「環境大臣賞」を受賞しました。

このほかにも、高速道路のサービスエリアや、修学旅行先の奈良で、県外や外国の人たちに、国富やコウノトリのことを知ってもらうために、PR活動などをしました。

最初のうちは恥ずかしかったけれども、もっともっと多くの人に、国富のこと、コウノトリのことを知ってもらいたいとみんなで頑張った思い出は、大事な大事な宝物です。



宮川小学校
かきもとわか
垣本 羽香 さん



敬老会の歌でソロパート

修学旅行や体育祭などのイベントや、ひまわりのモザイク画を作ったこと、朝礼の終わりに、6年生のみんなで、全校生徒にサプライズでものまねを披露したことなど、たくさんの思い出があります。

その中でも一番は、5年生のときの敬老会です。敬老会では、毎年、全校生徒から地域のおじいちゃん、おばあちゃんへ歌を歌うのですが、この年は、私がソロパートを歌いました。

私の夢は歌手になることで、そのことを知っていた当時の6年生の先輩が、「ソロパート、やってみたら?」と声をかけてくれたので、歌うことができました。

練習もたくさんして、本番で歌い終わったあと、周りのみんなが「上手だったよ」と言ってくれて、すごくうれしかった。何より素敵な思い出です。



遠敷小学校
もちづきみう
望月 美海 さん



「はたけじ」を素敵な場所に

遠敷小学校で過ごした6年間で、鯖街道の踏破や自然教室など、いろいろな体験学習をしてきました。

中でも、4年生のときに、姫神社の裏山にある広場「はたけじ」を、地域の人たちのお世話になって復興したことが、一番の思い出です。

よりたくさんの人に喜んでもらうにはどうするか考えながら、みんなで遊具や案内板を作りました。

それから何度も、下級生や遠敷保育園の子どもたち、地域の人たちを「はたけじ」へ案内して、遊び場にしたり、ふるさとまつりに活用してもらったりしました。特に、初めて保育園児たちを案内したときのドキドキは、一生忘れられません。

私がおばあちゃんになっても、遠敷の子どもたちが「はたけじ」に登ってくれたらうれしいです。



松永小学校
つじいはると
辻井 遥翔 くん



応援合戦で大盛り上がり

一番の思い出は、今年度の体育大会の応援合戦で、僕のいる青組が優勝したことです。

松永小学校での体育大会はこれで最後になるため、自分たちはもちろん、お父さんやお母さん、地域の人たちみんなが楽しみ、思い出に残るような応援にしたいと、案を出し合いました。

応援は、サッカーの試合の中継を劇仕立てにしたもので、僕は、キャスターのジョン・カピラさん風の実況アナウンサー「ジョン・ハルト」の役でした。

劇は大ウケで、特に、流行語を元にした「青組、半端ないって!」というセリフを全員で放ったときが、一番盛り上がりました。

みんなで力を合わせて、見に来てくれた人たちに喜んでもらえる応援が出来てうれしかったです。